新潟・腰廻（こしまわり）遺跡

1　所在地　新潟県北蒲原郡笹神村大字山倉村字腰廻

2　調査期間　一九九九年（平11）九月～一〇月・二〇〇〇年四月～八月

3　発掘機関　笹神村教育委員会

4　調査担当者　川上貞雄・杉本恵子・佐藤友子・渡辺達郎・中山俊道

5　遺跡の種類　集落跡

6　遺跡の年代　弥生時代後期～近世

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

腰廻遺跡は、新潟平野の北部、阿賀野川右岸に位置する。山倉村集落の東半部、折居川とその支流によって形成された標高三・八m程の自然堤防上に立地し、四km程下流で干拓前の福島潟南岸に達する。

折居川災害復旧助成事業に伴い、二年にわたり笹神村教育委員会が約四〇〇〇㎡の発掘調査を実施した。古墳時代から中世にかけての川跡九本が確認されているが、古代の川跡の左岸には掘立柱建物三棟とピット群がみられ、川跡のひとつには堰状の遺構がみられる。遺物の多くは川跡内からの出土であるが、八世紀～一〇世紀の土器とともに、木簡三点や串・人形・檜扇などの木製品が数多くみつかっている。また墨書土器も一〇〇個体程みつかっている。

中世の遺構は建物跡一棟と溝一本が検出されている。川跡の一部に杭列と矢板による護岸を行ない、埋没した川の上に建物を建てたと思われる礎板群もみられる。遺物は川跡に集中しており、木簡一〇点や在地窯産を中心とした陶器・貿易陶磁、箸状木製品・舟形木製品・曲物などの木製品・漆器類、銅銭などがみられる。

8　木簡の釈文・内容

古代の川跡

(1)　・×□伍本　　」

・　宝亀五年五月卅日」　　(139)×(13)×5　081

中世の川跡

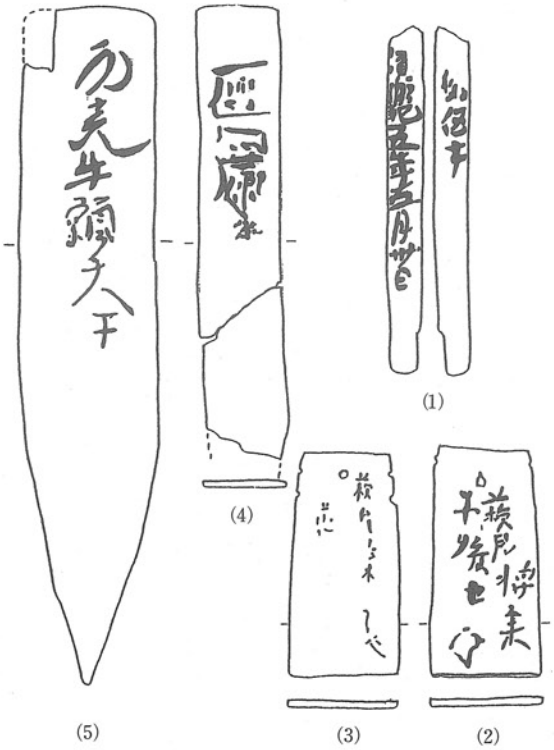
(2)　「〈。蘇民将来
子孫也□」　　91×43×3　032

(3)　「〈蘇民将来□□。」　90×42×3　032

(4)　「(付籙)急々×」　164×29×3　051

(5)　「□□牛頭天王」　274×53×5　051

内容がわかるものは、古代の川跡出土の三点のうち一点、中世の川跡出土の一〇点のうち四点のみである。



(1)は下端は原状。上端及び左右側面を欠損する。数量及び年月日の記載から、何らかの物品に付けられた荷札と考えられるが、上部を欠損するため物品名は不明である。湯浅吉美編『増補日本暦日便覧』によれば、宝亀五年に五月三十日は存在しない。

なお、木簡の釈読にあたっては、新潟大学の小林昌二氏と相沢央氏のご教示を得た。

(中山俊道)